

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	認知症介護の大切さをみつけ、基本理念に加え、介護理念とし、「個性豊かにその人らしく」を掲げ、一人ひとりを尊重する意識の向上を目指す。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	上記、理念の説明を、現場で指導する際、個別ケア、自立支援、センターパーソンドケアなどをキーワードに介護者の自己の価値観で推し量っていないか、事例に沿って、職員へ投げかけている。問題解決思考(原因を探って、より良い形を求める)
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	隣近所周辺が新興住宅である為、現在の近隣の住民の方達も、新たに入居して来られる住民の方達も含め、理解・認知・信頼して頂けるよう努めていきたい
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	地域行事に誘って頂いたり、顔見知りの方とコミュニケーションがとれているなか、自治会長の選任など変更のなかで去年から多少の変化が伺える更なる工夫を思案していきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所の行事への招待 地域の交流行事に参加している	○	地域高齢者へ住み慣れた土地で住み続けられる協力体制を整えアプローチしていきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員への評価の閲覧・協力を促す事で、参加意義・目的の理解を促している 改善点について迅速に対応するように努めている		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、自由な発想・新たな発見を重視しており、社会変化にそって話し合いがすすめられている。発案時には、なるべく実現出来るように思索している おおむね2ヶ月に一度の頻度にも関わらず、参加者十名前後の確保がなっている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員派遣事業に参加	○	市町村の運営推進会議での協力・参加を願いたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修の参加 朝礼での説明 必要な方には、事業所から対象の家族にアプローチし、支援している		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修(毎年一回、必ず研修を行っている)12月~1月(虐待がなぜ起きるのか?を正しく理解し、反面教師で介護の有りかたについて研修している) 日頃から、サービスの質の追求について啓発しているので、体質上、施設の理念に反する行為で有る事から虐待が起きにくい環境になるよう職員の管理をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行うだけでなく、質疑の時間を設けるように心がけている。なお、契約が人に対するサービスである事から疑問については契約者が納得のいくまで話し合いを行っている	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員・第三者機関・運営推進会議・家族会など行っている。運営推進会議では、自由な意見を求めているため、時に苦情相談についての話し合いになる事もある。なお、随時、相談・質問については受け付けるように努めている	○ ニングルの成長の種として、今後も広く受け付けていきたい 些細な事でも相談できる窓口として配慮を怠らない
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	開所当初より各利用者家族宛の個々の暮らし・健康についての報告書、金銭管理についての報告、を毎月行なっている 訪問時、(キーパーソン以外も含む親族)随時、近況の説明を行ったり、電話による質問に答えている	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	当事業所の苦情・相談窓口としての機能を確保し、契約時にその旨を説明と書面での説明(重要事項説明)を行なっている。また、関係機関の苦情窓口への説明も行なっている。苦情は内規により報告され、決定事項として現場におろされている	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時、受け付けている(口頭、カンファレンスノート、意見箱等) 又、会議、ミーティングなど職員の報告などで、より良いサービスへの意見や提案を啓発している	○ 職員間での遠慮などまだまだ、意見出来る職員が発言できるよう配慮していきたい
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	現在、勤務状況で無理が無いが、把握・声掛け希望休の受け入れなどにより、突然の職員確保にも職員が協力しているが最近の社会状況、介護業界の雇用状況から考え今後の雇用の維持について困難な状況が予想される	○ 介護保険の限界を感じながらも努力に努めている 賃金による雇用のメリットだけでなく、職員のやりがい(人事考課や現場でのホスピタリティの重視)、福祉サービス業務の誇りについて理解を促している。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	前年以上に職員の安定がみられている 現職の職員の理解があり、職員間でのなじみの形が形成されており各職員において勤務時間帯の安定がとれている	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数・能力・役職に適した研修が受けられるよう配慮している 会議や引き継ぎ等、職員間での話し合いの場で認知症介護の基礎を振り返る機会を設けたり、理念に沿った中で役職の責任に応じて判断させたり、OJTの機会に努めている	○ 会議・ミーティングなどでOJTは活用している 管理者による指摘や研修によりトレーニングされている ステージ分けされた段階的教育マニュアルを作成・計画し 書面による評価につなげていきたい 本年はおもに、「ケアでは個性豊かに私らしく」「職員管理では立場に応じた役割」について取り組んでいきたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○ 京都市内グループホーム職員との研修会 他事業所と合同での研修を執り行う予定	○ 他事業所間の従業員の交流の機会を増やしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	○ 基礎能力の育成は研修や日々の指導で行い。認知症介護士としての自覚を意識して頂く。提案については自発性を尊重して職員同士で話し合ったアプローチをなるべく、おし進め、仕事への自信や満足感を得ることによりストレスの軽減に努めている ホスピタリティについても意識している	○ ナガティブにストレスと捉えるのではなく、努力した結果の疲れとして、消化できる環境整備に努めたい 人間関係においては、他者を非難するのではなく、他者の協力無しに仕事を成しえない思いが持てる関係や目標を持って、取り組む介護及び評価される介護を目指している
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	○ カテゴリ別に評価には至っていないが、なるべく、チームで実行した事については結果を課題に、次につながる話の流れをとっている	○ ステージに応じて、自己の目標を持ち、宣言し、実行し、振り返り、評価する流れを作りたい(自己評価と上司の評価のギャップを知る等)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○ 初回情報の聴取について書式を作成し、普段の生活の情報・ニーズの聴取につとめている 同時に本人の癖、習慣、個性に注目しコミュニケーションを図る。(本人の言い分をそのままに聞く) 生活の不安の際に職員が助けになる事を認識して頂く様にアピールしていく。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○ 見学や説明の際、家族様の抱える問題、不安も含めお話頂き、今後の将来に向けてどのように付き合っていくかの相談やサポート計画を話している。相談に来られた方がなにかしらの答えを見つけられるように配慮している	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御困りごとについて、順に抽出し、優先順ごとに原因を探る。相談者の思いについて話を聞き、状況次第では、他のサービスについての説明を行なうなど話し合いを行なう時間をもうけている(心のゆとりを持った中で介護や人間関係を形成して頂く為の話し合い)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設しているDAYサービスから入所されるケースもある。当日の体験・一時利用・一時帰宅・短期利用の対応を行なっている。 例:週末の家族の元への帰宅等(除じょに慣れて頂くサービス) 当日の入所のケースも当然ある	○	将来の目標ではあるが、地域の利用者が本人から入所が求められるような状態(居心地が良い・人が集まりたくなる)にサービスを成長させたい
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一日の生活の中での生活支援を目的とし、協力を促し、利用者に参加して頂く中で必要な個所においてケアする事を主として介護を行うよう努めている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事・イベント時の家族の参加が増えており、その為に必要となる支援をおこなっている 現在、家族会からの申し出でボランティアの申し込みがあったりと良い関係作りがなされている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者・家族の意向を汲み、話し合う時間と実践していただく時間作りを努めるようにしている 家族間で一緒にレクに参加頂いたり、家族間でのコミュニケーションをして頂く機会をつくる。 行事の後、居室にて水入らずのコミュニケーション。現在の利用者様への家族への理解を促すなど		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来所前、疎遠になられていた、ご家族様とお会いになられたりされている 今後も現在の関係を大切にしていきたい(現在の利用者様をご理解頂く説明を行う)		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日頃、個々の愛称や利用者様が意識されない程度に席の配慮などを行い、各利用者、個人個人の複数の人間関係構築に尽力している 時に誤解が生じた時は、すぐに職員が対応、中傷が中傷になる前にフォロー対応している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所時及び退所後の支援・相談の対応をおこなうよう努めている 退所後年賀状が届いたり、退去先から(特養)事業所新聞等の配送を頂いたり職員との励みになっている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	グループホーム入所の段階で居宅よりも制約を受けておられる利用者様である事をまず、職員が理解し希望を言える環境づくりに努めている 又、現在利用の利用者様では、職員が思いを受けとめるためか、自由に発言されている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期情報をもとに毎月モニタリングを行い、日常の変化などを検討し、経過の把握に努めている。 日頃、利用者様への「気づき」を大切に些細な事であっても発言する様に職員に啓発している 家族からも時々変化について質問している		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	些細な変化への報告をカンファレンスでまとめ、医師の診断で裏付けをとりケア面と医療面を包括的に理解し、心身共に健康的な生活である事を第一に介護計画に反映させている		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人聞き取り、気づきの意見聴取(ほぼGH全職員)、看護師の視点・DRの診断などを踏まえて毎月モニタリングを行なうモニタリングを繰り返す中で本人ニーズにあった介護計画になる様に努めている	○	ケアプランに沿った対応をしているのだが、なるべくチームで話し合いが出来るように配慮している 将来的には、医師の総合的な視点を加えた上でのアセスメント(特に認知症の進行が定期的に意識できるようにMRIによる変化の確認)を使いたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直しは徹底している。職員及び家族等の気づき等、利用者の状況の変化時に迅速に見直しを行ない、改善に努めている。介護士の気づきの大切さについては日頃、職員に啓発している。家族に対してもなるべく聞き取りを行うように啓発している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの内容に沿った記録を重視している 「個性豊かにその人らしく」を現場理念にしているので、個別のケアを重きに置き、対応している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームだから出来るニングルの森だからできるという事を意識して支援にあたっている。(在宅で一人では出来ない事がニングルでは実現している)		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	訓練・教育の参加、必要に応じて地域資源の受け入れを行っている	○	事業所側も地域資源として、地域に協力していけるよう考えていきたい。 利用者においても、たとえ認知症があっても、一部のフォロー・工夫で地域資源に成りえる事を地域に知って頂く工夫をしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の希望や要望が叶う為のケアに努めている。本人の希望については、他の利用者のご迷惑にならない、可能な限り採用するように努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの協力・行司参加に努めるよう努力している	○	利用者が地域に暮らす全ての人々に理解され、支えあえる立場になられるように、利用者が地域資源としての活用される為の工夫を模索していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療の自由を尊重し、希望があれば、利用者のかかりつけ医で対応頂くように行っている。また、当施設の提携医療機関の主治医についてもご理解頂けるよう、間に入り説明及び協力に努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	基本的に理念(尊厳)を侵害しない風潮になるように啓発・教育を徹底している。但し、自己表現が困難な利用者においては、家族の許可の上、その利用者が不快にならないように十分に配慮の上でコミュニケーションを行うように努めている。プライバシーにおいても同様に利用者への配慮を徹底している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定を尊重しつつ、認知からの誤解については、家族と相談の上、本人が納得し、失望しないよう促している。新たな可能性についても利用者に向け情報提供を行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に変化を続ける認知症の利用者の対応を考え、本人の希望を日常から引き出すよう努めている。カンファレンスなどで話合われている本人の理解を大切に本人本位の体制・対応を大切にしている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	可能である事を本人に伝え、希望について、できる限り実現できるように支援している。(出かけるお店を選択して頂く) 女性については、化粧を促して、興味をもたれるキッカケ作りなど行っている	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	イベント時の(誕生日等)好みへの声掛けや普段の生活の中で準備・片付け・調理など本人のできる事、支援によってできる事など意識し、参加して頂いている。利用者の習慣となり、協力的に行って頂いている。	○ 役割を通じて全ての利用者間でのコミュニケーションの中で共生をより意識して頂けるように努力していきたい (バースデイには手作りケーキを作ったり、本人の食べたい物をメニューに加える努力をしている)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の希望のとおり、おこなっている 但し、思いつきへの対応については、行える範囲での対応で行っている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターン表の作成やトイレ誘導の対応。また、必要に応じて、医師からの調薬を受けている利用者もおられる		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に応じて柔軟に対応している。(完全個室) みなさんが入れない時に順番に入ってもらっている		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	24時間その日によつての体調を配慮し、休息できるように心がけている 就寝時は時間を押し付けず、適当な時間まで、自身の生活パターンに合わせている 周辺症状が原因の方にはもちろん、個別で効果的な方法を模索し、入眠頂けるように職員が工夫している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日頃、利用者個々に笑顔で一日を始め、心地良くその日を終えて頂く配慮している。 その方の趣味、嗜好に合わせて、支援を行い、なおかつ新たな目標や活動に関する意欲がわくように情報提供を行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人管理できる方については、自身で所持して頂き、困難な方においても買い物でお財布から自分で清算して頂くように支援している		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援している	天候などの話題から外出意欲がわくようにコミュニケーションを行っている。 買い物、喫茶、散歩、など外出については職員・家族と共に出かけられている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段から会話をキッカケに聴取しており、出かけられるときの候補、又、家族対応については、自由に外出対応を行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用をしてもらっている。また、手紙については代行で投函する場合もあるが、郵便局へ行く場合もある		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問は自由で対応している。また、来所者に対する訪問は自由である事も説明している(外泊・ホーム泊についても可) ※利用者の関係者である事が前提であり、本人の意思決定を尊重。デリケートなケースについては相談にて対応している		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徹底している。拘束が仮に必要な場合、カンファレンスにて必要の有無を検討の後、記録として残す。もちろん家族においても、状況把握して頂きなるべく、選択できるように配慮している。また、定期的に研修を行っている		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	時世の状態から在宅中であっても、危機管理の側面から鍵の施錠は見極めて行っている	○	和様の概観から視覚的に閉鎖間は少ないと思われる。居住中の利用者についても閉塞感は、ほぼ無いと思われる訪問者・利用者からの苦情は聞かれていない
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に安全面の管理については努めている 状況把握、空間把握について、指導を行っている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	生活の中での危険物は多々あり、必要に応じて片付ける。常に出しておく物であっても危険の少ないように整頓し工夫している。なお、危険物の近くは職員に意識させ、常時、声掛けを行っている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	消防局の緊急対応についての講習を受けている職員を配置しており、マニュアルにより事故防止策をこらしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防局の緊急対応についての講習を受けている職員を配置しており、またマニュアルにより事故防止策を講じている。連絡網(緊急連絡先)の準備と対策マニュアルの作成		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練(避難訓練・初期消火訓練)を利用者参加で行っている 防災用品の見直しなど随時行っている (日頃よりルームシューズに慣れて頂いており、非常事態には、すぐに非難できるよう心がけている)		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時のアセスメント、介護計画説明時、普段から説明等、利用者の変化も含め状況に合わせ、個々のリスクと将来の生活体系について、キーパーソンと話し合いが行えるように努めている		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	巡回を徹底している。職員の発言し易い環境に配慮しており、引継ぎ、日誌にて状況の変化について報告を職員間で行い、変化について看護職員と相談。必要に応じて医師への助言を受けつつ対応している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	記録物、服薬・塗布薬の個別管理と表作成により対応している		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	記録物、服薬・塗布薬の個別管理と表作成により対応している		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	MC・NC・歯科受診により対応している 必要に応じて毎食後のケアも行っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の持込をうながし、レイアウトは極力、利用者及び家族に委ねられるよう努めている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓の開け閉め、空調調節に努め、環境整備をするよう努めている(利用者が不快に感じられない幅で)		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置。スノコ等による高さの調節、扉の段差には傾斜をつけ、車椅子で入れるようにしている等に努めている たとえ認知症であっても、反復して声掛けを行い段差を越える習慣を身につけて頂けるように諦めずに声掛けを行っている。	○	階段利用のため階段設備については職員による付き添いを行うことで安全確保に努めている(建物で一番のリスクの場所)
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者が判断するにあたっての判断過程を意識し、自立支援の観点から可能な限りの活動の推進と失敗に至らないケア(気づきのケア)を行う。万が一、失敗や中傷に至る際には、喪失感を持たれる前に職員により介入し、大きな溝に成る前に他の活動などにより自信を取り戻して頂く。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	隣の公園での散歩やベランダでの洗濯物干しなどを職員と共に行っている。	○	その他、模索中 隣接の公園については良く利用している ベランダを含む、リスクの高い場面での管理については、利用者にとって何が重要かを意識し、方法を十分に検討していきたい。(万が一が起きない管理)

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個別介護に力を入れ、その人らしくは当然ながら、豊かな個性を見出し、満足と笑顔に繋がるケアに努めています。